

未来へつなぐ 自然災害伝承碑の声

自然災害伝承碑と地図で、私たちの暮らしと命を守る

なぜ今、「地理」と「伝承」なのか

日本は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっています。さらに近年では、気候変動の影響で「1時間に50mm以上の大雨」の発生回数が約40年前に比べて1.5倍に増加するなど、災害リスクはかつてないほどに高まっています。

これまで幾度もの災害を乗り越えてきた先人たちは、その教訓を後世に伝えるために「**自然災害伝承碑**」を残してきました。自然災害に備える方法のひとつとして、自然災害伝承碑が活用され、住民の防災意識の向上への貢献が期待されます。

1. 風景に埋もれた自然災害伝承碑の「警告」を読む

自然災害伝承碑とは

過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害などの自然災害の様子や教訓が刻まれた石碑やモニュメントのことです。発生年月日、災害種別、災害範囲、被害内容や規模などが刻まれています。被災場所に建てられていることが多いです。

地図記号

自然災害伝承碑の地図記号は、新しい地図記号として制定され、2019年から国土地理院が提供する「地理院地図」等に掲載され、スマートフォンやパソコンで手軽に探せるようになりました。



地図記号

※以前は、概念的に記念碑 [] (ある出来事や人の功績などを記念して建てられた碑やモニュメント) に含まれていました。



地理院地図
表示アイコン



地理院地図 (自然災害伝承碑を表示)

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦 四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日連続した豪雨により天地川や総瀬川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集
制限事項	

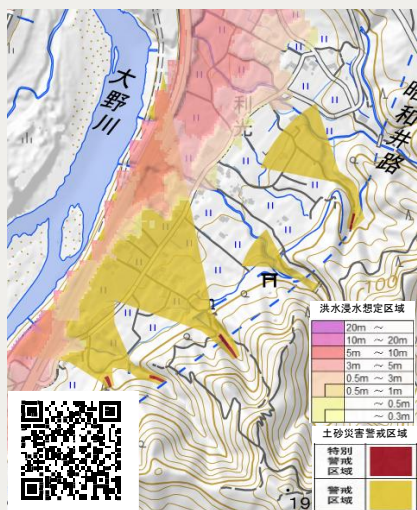
ID:34309-002



自然災害伝承碑のアイコンをクリックすると、該当の碑に関する情報が写真付きで表示されます。

2. 地形を知り、リスクを可視化する

災害から身を守るためには、ハザードマップを見るだけでなく、その基盤となる「地形」を理解することが重要です。



等高線から地形を「読む」

「等高線」は土地の高さを表しています。

- 線の間隔が狭い

急な斜面 ⇒ 土砂災害（がけ崩れなど）のリスクがあり
周辺地域にも影響することがある

- 線の間隔が広い

平坦な土地 ⇒ 低地の場合、水が溜まりやすい可能性

災害リスク情報の「重ね合わせ」

「ハザードマップポータルサイト」（国土交通省）の「重なるハザードマップ」ではハザードマップに使用されている「災害ごとのリスク」を背景地図と重ね合わせることで、地域の危険箇所を確認できます。（左図では、洪水と土砂災害のハザードエリアを示しています。）

土地の成り立ちを知る

「土地条件図」や「治水地形分類図」で表示されている地形を見ると、その場所が元々どのような土地だったか（旧河道、埋立地、扇状地など）が分かります。

- 旧河道：昔、川が流れていた場所 ⇒ 地盤が弱く、浸水しやすい
- 扇状地：谷の出口に土砂が堆積した地形 ⇒ 水はけが良いが土石流のリスクもある

【実践】地域の歴史を「自分事」にするステップ

1. 地理院地図で検索

お住まいの地域や職場周辺に「自然災害伝承碑」がないか探してみましょう。

2. 現地を訪れる

実際に自然災害伝承碑のある場所に行き、自然災害伝承碑の位置と地形の関係を確認します。（なぜここに自然災害伝承碑があるのか？ 周囲より土地が低いか？ など）

3. 碑文を読む

碑文を読み、どのような災害が、いつ起こり、どう対処したかなどを知りましょう。

デジタル化された情報から知る

大分県災害データアーカイブは、大分県で、過去に「どのような」災害が起き、「どこで」被害が発生したか、およそ1300年間の記録をまとめたものです。活動の一環として大分大学が実施した「フィールドツアー」の様子を動画で公開しています。

フィールドツアー動画

2025年11月15日 フィールドツアー in 杵築市の様子

大分大学では災害データアーカイブの活動の一環として、フィールドツアーを実施しています。フィールドツアーを通じて過去に埋もれた災害の歴史を共有することで地域の防災意識を高めることを目指しています。フィールドツアーで見つけた災害伝承碑は災害データアーカイブに登録されるだけでなく、地図記号としても登録されます。ここでは過去のフィールドツアーの様子を掲載します。

2024年11月23日 フィールドツアー in 国東市の様子

3. 日常生活と地理的技能を結ぶ

地理的技能は、特別な訓練ではなく日常の視点を少し変えるだけで身につけることができます。

通学・通勤時間を「フィールドワーク」に

スマートフォンの地図アプリなどを見ながら、「地図上の記号」と「景色」を照らし合わせてみると、土地の使われ方や高低差を体感できます。

◆フィールドワークの発展

- ・古地図や過去の空中写真と現在の地図や最新の空中写真を比較したり、土地の特徴や成り立ちなどを示す「土地条件図」や「治水地形分類図」、「明治期の低湿地」の情報から地形の特性がわかります。その土地に自然災害伝承碑が建立された理由がわかるかもしれません。
- ・地域主催のまち歩きなどに参加することで、楽しみながら地域の歴史や災害特性を学ぶことができます。

デジタル技術の活用

国土地理院の地理院地図などを使って、様々な情報を重ねて表示することで、土地利用の変化や地形と災害リスクの関係を視覚的に把握することができます。現地に行くことが難しい場合でも地域の災害特性を想像することができます。

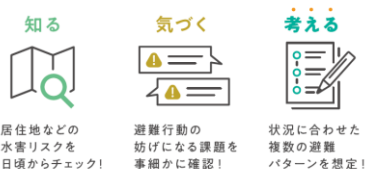
【コラム】デジタル技術の活用の発展

災害リスクを考慮して「マイ・タイムライン」を作成し、「いつ」「何をするか」を決めておきましょう。

マイ・タイムラインとは

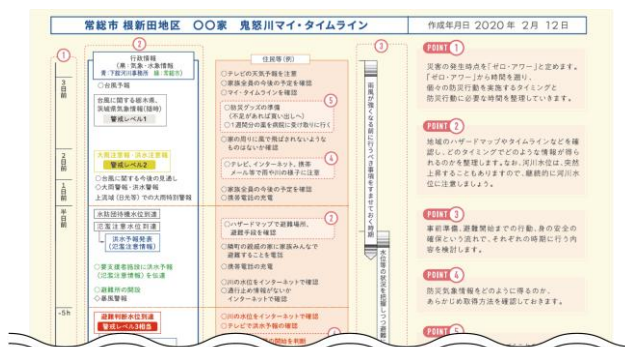
台風や大雨等の水害に備え、自分や家族がとるべき防災行動を時系列で整理した個人の避難行動計画のことです。

「我がこと」として考えることが重要！



「万が一の非常時には」

ためらわずに行動を！



マイ・タイムライン
(国土交通省)



マイ・タイムライン完成イメージ

防災対策に「正解」はありません。日常生活の中でできるところから「準備」をしておきましょう。休日の散歩がてら、地図やスマートフォンを片手に町を歩いてみてはいかがでしょうか。

「ここは昔、川だったかもしれない」「この石碑はここまでの浸水を伝えている」

そんな地理的な「気づき」こそが、いざという時にあなたと大切な人の命を守るための重要な判断材料となります。

参考・出典

文部科学省 気象庁「日本の気候変動2025」 (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/2025/pdf/cc2025_honpen.pdf)

国土交通省「ハザードマップポータルサイト」 (<https://disaportal.gsi.go.jp/>)

国土地理院「地理教育の道具箱」 (<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/index.html>)

地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base-std&ls=std&disp=1&vs=c1g1J0h0k010u0t0z0r0s0m0f1>)

大分大学減災・復興デザイン教育研究センター (CERD)「大分県災害データアーカイブ」 (<https://archive.cerd-edison.com/>)

「マイ・タイムラインかんたん検討ガイド」 (<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/pdf/kentouguide.pdf>)

令和8年10月作成